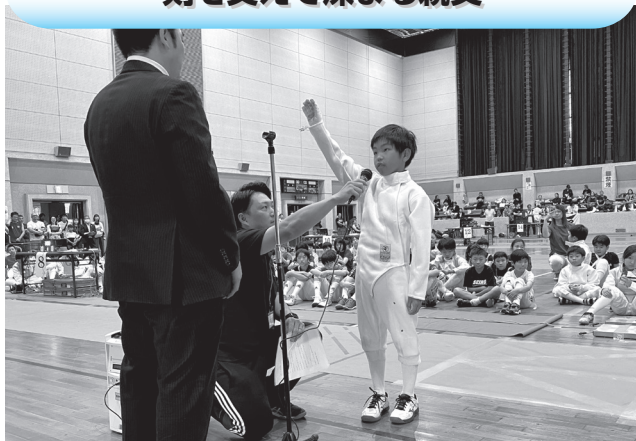


剣を交えて深まる親交



10月14日(月)に町総合体育館にて、町フェンシング協会主催の養老町制施行70周年記念フェンシング大会が開催されました。養老町制の施行70周年を記念し、フェンシングの普及とレベルアップを目的として開催され、各部門で予選リーグとトーナメントによって順位を決めました。

出場選手を代表し、佐久間陽生さんの宣誓によって大会が開幕し、全国各地から参加したたくさんの選手による白熱した試合が繰り広げられました。この大会をとおして、出場した選手たちは剣を交えることで腕を磨くとともに、選手だけでなく、参加した関係者など、多くの人たちが親交を深める機会となりました。

声掛け合って掴んだ優勝



第10回全国中学生フェンシング選手権大会の団体戦で優勝したことを報告するために、10月10日(木)に桐山純選手と三輪楓華選手(ともに はしまモア所属)が川地憲元町長を訪問しました。

両選手は「団体戦の前に臨んだ個人戦では満足のいく結果が残せませんでしたが、チームで声をかけ合って気持ちを切り替え、団体戦で優勝することができたのでとても嬉しいです」と笑顔で話してくれました。川地町長は「一生懸命取り組んでいく中で、嬉しいことも悔しいこともあると思いますが、これから先も更なる高みを目指してフェンシングを続けていって欲しいと思います」と激励しました。

活動の功績認める最高位表彰



40年以上にわたり地域のために活動を続けてきた功績が認められ、10月9日(水)に開催された赤十字奉仕団員のつどいにおいて、日本赤十字社より金色有功章を授与した町赤十字奉仕団の味田絹代委員長が、その報告をするために10月29日(火)に川地憲元町長を訪問しました。

金色有功章とは、活動継続年数が20年以上で、かつ特に功労顕著にして他の模範となる人や団体に対して、日本赤十字社から贈られる最高位の表彰です。町赤十字奉仕団は昭和58年に発足して以来、災害支援研修会やクリーン活動、友愛訪問などの活動を続けています。また、同時に長年奉仕団の活動に従事してきた団員も同時に表彰されました。

熟練の経験と技術



新潟県で開催される第32回全日本古希軟式野球大会に出場する野村壽男選手と坂本光良選手(ともに 大垣シニア所属)が、10月9日(水)に川地憲元町長を訪問しました。

両選手は「古希を迎えましたが、自分らしくプレーできています。また、野球を通じて人の輪も広がり、とても充実しています。初戦から昨年の準優勝チームと対戦するので、気合いを入れて試合に臨み、1回戦を突破してさらに良い結果を目指したいと思います」と抱負を語りました。川地町長は「勝負は時の運といいますが、ぜひ勝ち上がり、思い出に残る大会にしてください。良い報告を楽しみにしています」とエールを送りました。